

# THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



なごや  
ちくさ  
WEEKLY

名古屋千種ロータリークラブ  
承認 1982年 8月24日  
例会日 火曜日 12:30  
例会場 愛知厚生年金会館  
事務局 〒464 千種区池下一丁目4番18号  
井上ビル4F D号  
Tel 763-5110  
会長 加藤大豊

見つけよう 奉仕の新生面  
Discover a New World of Service

1984~85年度RI会長 カルロス・カンセコ

No. 42

## 第136回例会 昭和60年4月30日(火) 晴

### ◆“奉仕の理想”

#### ◆出席報告

会員 55(6)名 出席 48名  
出席率 85.45 %  
前回 4月23日 (修正出席率) 98.18 %  
make up

古川君(4/27守山), 橋本君(4/23大阪南), 堀場君(4/21小諸), 小池君(4/27守山), 松居君(4/27守山), 三輪君(4/22空港), 宮尾君(4/21小諸), 永井君(4/22空港), 新美君(4/22空港), 尾関君(4/19港), 佐野君(4/21小諸), 笹野君(4/25西), 鈴木(四)君(4/17和合)

#### ◆ビジター紹介 7名

#### ◆お誕生日祝福

尾関夫人(4/25), 佐野夫人(4/29), 秋山君(5/2), 菅原君(5/4)

#### ◆ニコボックス

菊池君(バッチを忘れました。今後気をつけます), 新美君(御無沙汰しました), 林君(連休の空を思いっきりフライトをして参りました), 尾関君, 佐野君(夫人誕生日祝), 秋山君, 菅原君(お誕生日祝), 矢野君, 加藤(犬)君, 松居君(結婚記念祝)

#### ◆谷口幹事報告

- 5月21日(火)A.M.10:30~P.M.12:15, ロタリー情報委員会より新入会員教育が開催されますので, 出席義務者の方には, 改めてご案内申し上げます。
- 本日例会終了後, 理事役員会を行ないます。理事役員の方は, 2F橋の間にお集り下さい。
- 野村君と鷺野君の名簿が出きましたので, お手持ちの手帳に差し入れて下さい。

#### ◆加藤大豊会長挨拶

若葉の候, 風薫る大変爽やかな季節となって参りました。町を歩きますと, 健康的な肌を惜し気もなく出している女性が多くなり, 彼女達を見ているだけで, 私も若返ってくるような気がします。処で, この人類が地上に現

れたのは, 約300万年前の事。南アフリカのヨハネスブルグ付近で発掘されたオーストラロピテクスという原始人が最初と考えられ, その後, ホモ・エレクトゥスを経て, 現在の人類, 即ちホモ・サピエンス(賢い人の意)となったのは約10万年前の事です。以来, 今日まで実に気の遠くなるような長い歴史が続いています。この歴史の中で人類が大きく変化, 進歩したのは, 言うまでもなく現在, 即ち20世紀であり, 驚異的な時代なのです。例えば, 地球上の人口は1850年には, 僅か12億人だったのが, 1950年には20億人に急増。今年には47億人と更に増え, 今世紀の終りには50億人を超すと推測されています。科学の分野でも, 素晴らしい発展を遂げ, 今世紀初めには, ずば抜けた物理学者が時期を同じくして, 多数出現しました。アインシュタイン, ラザフォード, キュリー, ボアー, ヘルシ, ハーン, 我が国では湯川秀樹, 朝永振一郎等, これらの人々により物理学は大発展を遂げ, 人類第2の火とも言うべき原子力が, 発見されました。しかし, その結果, 恐るべき原子爆弾が製造されるようになったのは, ご承知の通りです。科学の発展は, 人類の幸福のためにこそあると信じていた私達は, 同時に, 人類の滅亡にも繋がるという事を思い知らされ, 又物理学に限らず, あらゆる科学は両刃の剣である事を認識しました。今世紀の半ば, 第2次世界大戦が勃発し, 戦争の武器類の発達に伴い, 多くの科学も一段と進歩しました。工学の部門では, ドイツのフオブラウンにより, 爆弾としてロケットが創造され, ロンドン市民を脅かしましたが, ロケットの発達により, 我々が夢想もしなかった月へも行けるようになり, 今日, 多数の宇宙船が地球の周囲を回遊し, 通信や気象の観測に素晴らしい活躍をしている事は周知の事実です。しかし, この

ロケットの発達は、又、原子爆弾を積み、大陸間弾道弾の製造に繋がり、現在、少なくとも数万発が貯蔵されており、何時炸裂するかも知れない恐ろしい世の中となりました。科学の進歩、伸びる寿命、幸福の陰には大きな恐怖もあるということを示し上げ、今日の会長挨拶と致します。

#### 第4回クラブフォーラム

##### — 海外姉妹提携クラブ特別委員会報告 — 菅原委員長

1. 海外姉妹クラブ提携のための準備、提携文書作成の過程報告。
2. 作成された提携文書の内容説明。

#### ◇ 1985～1986年度第260地区

地区協議会報告  
—— 会員増強部会 —— 菅原次期委員長  
会員増強を全会員の協力の中で、18～10%を目標にしたいと思います。具体的な方法については、委員会のメンバーと十分に意見交換をし、目標の達成にむけたいと思います。

—— 社会奉仕部会 —— 大谷次期委員長  
今年度の問題点として、「手續要覧」中の奉仕をどういふ深さで行うかについて述べた23-24が省かれた。もともと個人のポケットだけでは不足がちな資金が、クラブ単位となりましたが、スケールが大きくなると限界が生じる。従って、1923年に発生当時の精神を勉強し直そうと規定化されたものである。時の流れは早く、新しい時代の奉仕の形態は変わってくる。そこで、今回の決定になったのだろうか、不易不変の物と、時代と価値感の変化により変わる物がある。心の中の善意を行動に表わし、時代のニーズに合った動きをしていく事が活性化に繋がる。

—— 国際奉仕部会 —— 深見次期委員長  
国際奉仕委員会には、青少年交換小委員会、世界社会奉仕小委員会、世界親睦小委員会があり、現在、青少年交換については年間18人を海外に派遣する財政的余裕があるが、現実にはそれよりも少ない数の交換留学生しか派遣されていない。

より多くの交換留学生の応募を期待するものである。  
全世界では1984、1985年度に約7000名がこの交換学生として参加したと推定されている。  
交換学生の資格としては、出発時、満18才未満(中3～高3)の青少年で、対象は、ロータリアンの子弟、血縁あるいは一般のいずれでもよく、各R.Cにて推薦派遣する場合は、受入れが条件となる。

往復の航空運賃、旅行中の保険、衣服、身回り品等は自己負担となり、生活費、教材、授業料、小使い(月額10000円又は相当外貨)学校ならびに受入地区の行事(地区大会等)に参加する費用は、受入側の負担となる。

『1ヶ年交換』(交換国アメリカ、カナダ、

オーストラリア、ブラジル)と『短期交換』とがあり、1984～1985年度迄の実績は、『1ヶ年交換』が派遣145名、受入れ157名。『短期交換』が派遣94名、受入れ42名である。  
『夏期短期交換』のプログラムとして満20才未満の高校生、大学生を対象とし、夏期約6週間(7月15日～8月31日)を実施している。1984年度の派遣はなく、1985年度は相互交換実施の予定。

従って具体的には1986～1987年度には、1985年7月20日迄に1クラブ2名以内推薦し、8月選考、面接によって候補者の決定を行なう予定。

交換計画の実施にあたって注意すべき事柄として、交換学生をお客様扱いしない事。日本の習慣に従わせる事。華美なお土産を持たせない事等注意すべきである。

#### 世界社会奉仕小委員会

これまであまり認識されていないが、地区クラブレベルで、相手方クラブに対して奉仕することが、その骨子であり、実例として、ケニアに対する奉仕フィリピンに対する奉仕給食費の援助1000\$, 医療費2000\$, インドネシア身体障害児2000\$, ポリオ撲滅運動5000\$ 拠出し、ごく最近では、アフリカ難民救済2000\$ 拠出している。  
3年間この奉仕活動に参加していないところが殆んどであり、必ずクラブの活動として実施を希望するものである。

#### 世界親睦小委員会

クラブ提携問題については、総論的にいって、提携は慎重に行かない、まず友好関係より一歩ずつ進んでいくべきである。提携のはじめにあまり華々しいことした為、その後負担が増え、長続きしない傾向があり、いきなり提携文書にサインをするような事をしたり、あまり盛大な事は避ける。一方が、提携関係を解消したいという際、後で紛争のもとになるので、特に注意されたい。国情やロータリーの程度が随分違うので、安易な提携は禁物である。

但し、方法によっては、いい関係を作っていく事ができる。現実には言語の関係もあって、台湾が圧倒的に多く、後は、韓国とかアメリカ、ハワイ等がある。

—— ロータリー財団部会 —— 松藤次期委員長  
ロータリー財団についての近況と昨年度の実績報告。財団の寄付、ポール・ハリスフェロー、及び準フェローの会員増強、財団のプログラムの主要課題の1つである次年度の奨学生募集要項についての説明。ロータリー財団月間、及び11月の運用の仕方についての具体例、米山奨学生等の説明がありました。  
※ 前回、ウィークリーの都合によりお伝え出来ませんでした地区協議会の報告を、今回掲載させて頂きました。

◇ 次回例会(5月7日)  
講演 “私の職業について”  
会員 鷺野 義明 君